

# 文化の中のからだ

## —ウイグルと日本の比較—

福岡県立大学 教授 藤山 正二郎

### 1.はじめに

ウイグル人は中国・新疆ウイグル自治区に住むトルコ系民族である。彼らと日本との身体に関する考え方、身体技法を比較してみたい。その前に、ここで使う言葉について、説明しておこう。タイトルには「からだ」と書いているが、大和言葉としての「からだ」は魂の容器のような、「から（殻）」からきている。だから、意味として広がりを持つものではない。「身体」は漢字として同じような意味である。大和言葉として意味深いのは以下に資料で示しているように「み」という言葉である。

ウイグル語で「からだ」にあたるのはいくつかの言葉がある。ボイ「身長、身体、衣服の幅、水のほとり、——ボイを与える（服従する）、ボイが十分（成人する）」、バダン「体格」、ガウダ「体躯、車の胴体」、タン「身体、——タンを与える（諦める）」、ウジュット「身、——すべてのウジュットで（全身全霊で）、ウジュットに起こる（発生する、実現する）」。日本語の「み」ほどの意味の広がりは見出せないが、現時点では資料的な制約もあり、明確にはいえない。

また、身体技法とはモースによれば、文化が身体に対して型を刻印する伝統的な仕方のことである。武道や伝統芸能がその例であり、その他に日常的な身体技法も数多くある。①出産の技法、②幼年期—母子の接触、ゆりかご、離乳とその後の運動、③青年期および成人期—眠り、休息、運動（走る、踊る、跳ぶ、登る、降りる、泳ぐ、投げる、つかむ）、身体の手入れ（洗う、つばを吐く、用便）、消費（食べる、飲む）、性行動、看護（マッサージなど）。老年期がないのは、それまでにすべての身体技法が習得されるからである。『文化人類学キーワードより』

からだは多岐にわたるテーマであるが、ウイグル民族はイスラムでもある。その点独特の身体観がある。誕生祝いから葬式まで様々な身体性が表現されている。その中でも特徴的なのは少年が小学校に入学するまでの行う割礼である。昔は割礼師が行っていたが、今は病院です。その意味はイスラム教徒のしるし、赤ん坊時代へ決別などである。そのあとの祝宴が派手である。親族縁者、近所、知り合いなど500人以上は集まる。

また、イスラムは清潔に敏感である。

『「清潔は信仰の半分」と言われるように、ムスリムは清潔を重んじ、「大汚」の際に沐浴し全身を水で清める義務がある。また金曜日の礼拝前の沐浴も義務となっている。沐浴は絶対水(水そのものであってバラ水のように何かの付加物でない水)で行うべきもので、清浄な水には浄化作用があるとされている。

○ 望ましい沐浴 ……礼拝前の沐浴, ラマダン—日の夜の沐浴, 犠牲祭の前夜の沐浴など

○ すべき沐浴…「大汚」の後

1. 不浄の時の沐浴(男女の交接の後)
2. 月経の時の沐浴
3. 分娩の時の沐浴
4. おりものがある時の沐浴
5. 死・死体と接触のあった時の沐浴 (まだ冷たくなりきっていない死体はこの限りでない)
6. 死体の沐浴
7. 願掛けや請願によって義務付けられることとなる沐浴 』

これらの他、イスラムはからだと強い関連を持つ「食」に関しても厳しい規定を持っている。ラマダン、陰暦の9月の断食は有名である。夜明けから日没まで続く。すべての過去の罪がそれによって許される。不浄な食べ物として豚肉があるのはよく知られている。羊の肉が多いが、それでも儀式に従い処理された動物のみが食用となる。肉食動物は食用にならない。アルコール類も禁止で、左手は不浄であるから、食事のときは必ず右手である。

そのほか、講座では誕生祝い、結婚式など人生儀礼、またウイグル人の好きな踊りなど、現地調査で撮影したビデオを見ながら話して行きたい。



「ウイグルの踊り」



「女性親族の結婚式の挨拶」



「赤ん坊のゆりかご：ブシュク」



「ウイグルの叙事詩人」

■身〔「み(実)」と同源〕

① 生きている人のからだ、またその主体としての自分。② 社会的存在としての自分のありようをいう語。1、地位。身分。分際。2、立場③ あるものの本体部分。付属部分や表面部分に対していう。1、肉など

——が入(はい)・る : 一生懸命になる。熱中する。

「勉強に一・らない」「話に一・って、時間のたつのも忘れる」

——が持たない : 体力が続かない。健康が保てない。

——から出た錆(さび)

〔刀身そのものから生じて刀身を腐らせる錆の意〕自分の犯した悪行のために自ら苦しむこと。自業自得。

——に覚えがあ・る : 自分自身でたしかにそのことをしたという覚えがある。

——に過・ぎる : 「身に余る」に同じ。 : 「一・ぎる光栄」

——に付・く : 知識・技術などが真に自分のものとなる。「技術が一・く」「都会生活が一・く」

「悪銭一・かず」

——につまされ・る : 他人の不幸などが我が事のように思われる。

——の置き所がな・い

窮地に立たされ、または恥ずかしさのあまり、その場から逃げ出したい気持ちである。

——の振り方：自分の将来についての方針。「一を考える」

——二つになる：子供を生む。出産する。

——も細・る：心労でからだだがやせる。「一・るような思い」

——を誤(あやま)・る：間違った生き方をする。道を誤る。

——を入(い)・れる：心をこめてする。「仕事に一・れる」

——を起こ・す：出世する。「一介の農民から一・した」

——を落と・す：おちぶれる。零落する。

——を砕(くだ)・く：非常に苦勞する。身を粉(こ)にする。

——を削(けず)・る：非常な苦勞をする。骨身(ほねみ)を削る。

——を焦(こ)が・す：恋慕の情が抑えられず、もだえ苦しむ。「恋の炎に一・す」

——を粉(こ)に<sup>⑤</sup>する：苦勞をいとわないで努力をする。精根尽くす。「一<sup>⑤</sup>して働く」

——を沈・める：おちぶれた境遇に身を置く。特に女性が身売りして、遊女などになる。

「苦界(くがい)に一・める」

——を持(じ)・する：厳しい生活態度を持ち続ける。

——を投・ずる：一身を投げ出して、物事に打ち込む。「実業の世界に一・ずる」

——を投・げる：投身自殺をする。「海に一・げる」

——を引・く：これまでの地位・立場からしりぞく。「政界から一・く」

——を持ち崩(くず)・す：品行が悪く、だらしのない生活をするようになる。

——を焼・く：激しく思いつめて悩む。身を焦がす。「恋に一・く」

——を寄・せる：ある人の家に一緒に住まわせてもらい世話になる。寄寓する。

身体感覚：内臓感覚による言葉

『ウイグル語』

aq 空腹の：aq-tok 困難、苦勞：aqqik 苦い、辛い、酸っぱい——薄情、厳しい：aqqiklimak

怒る：ax 食事：axik 恋人：kulak aqrimak 耳が痛い—辛らつ

kulakni tolqimak 耳をねじる—そそのかす：kulakni sozmak 耳を引き伸ばす—教え諭す

korsak 腹、度量、：korsaklik 腹の大きい、度量の大きい、：——kepugi、kepmak、腹が膨張する：怒り、：——agrighi 腹が痛い：怒り、悩み：qosigi kanlik 腹が広い：心が広い：kara kosak

腹黒い：kol 手、ふところ具合、：——kanat 片腕：頼りにする

——手を返す—逆らう：手を引く—拒絶する：手を切る—断絶する：手が長い—金持ち

手が短い—貧乏：koli oquk 手が開いている：気前のいい、お人よし：koli yenik 手が軽い—勤勉

な：koli egir 手が思い—怠ける：zimma almak 肩にもつ—引き受ける

yuzsiz 顔がない—恥知らず、：yuzini kilmak する—顔を立てる：yuz-hatir 顔を記憶—義理：tili

uzun 言語、舌が長い、—理に適った、筋道の通った

『英語』

liver 肝臓、hot liver 熱情、white liver 臆病。

put my nose into 干渉する、bite a person's nose off がみがみ言う、lead by the nose 支配する。

：belly 腹 —大笑い belly laugh：about my ears 面倒を起こして、be all ears 傾聴して、：

face 面目

『日本語』

はらわたが煮えくり返る

肝を冷やす 肝に染みる 肝が太い 肝に銘ずる 肝をつぶす

腹が立つ 腹が据わる 腹を抱える 腹を括る 腹を割って 腹黒い 太っ腹  
胸が高鳴る 胸が熱い 胸が痛む 胸がつかえる 胸騒ぎがする (胸を開く)  
鼻息が荒い 鼻を鳴らす 小鼻を膨らます (目から鼻に抜ける) 鼻が高い 鼻に衝く  
耳障り 耳が痛い 耳を澄ます 耳を塞ぐ (耳にたこができる 耳を揃える)  
頭が痛い 頭を抱える : 顔が青ざめる 頬を染める 顔の広い (眉を曇らせる)  
腕がなる 腕が鈍る 腕の立つ (肘鉄砲を喰らわす)  
手をかける 手がかかる 手を切る : 足がすくむ 浮き足立つ  
目を細める 眩しい 目尻を下げる 目を見張る 目を吊り上げる 目を白黒する  
目を皿にする 目に触れる 目障り 瞼が重い 目をふさぐ (目の鱗が取れる)  
汗が出る 汗が吹き出る 冷や汗をかく 鳥肌が立つ 身の毛がよだつ 肌の合わない  
骨を折る 骨が折れる (骨肉の争い)  
口を切る 口を拭う 口が軽い 口が重い 口を閉ざす 口を尖らす  
後味の悪い 舌なめずりをする : 腰が重い 腰が軽い 腰が低い : 尻が軽い

藤山正二郎 (ふじやま しょうじろう)

福岡県立大学人間社会学部社会学科教授 (文化人類学)

研究分野: 中国新疆ウイグル自治区 (シルクロード) の文化人類学的研究、

「ウイグルのマッシュアップ」(2005)、「儀礼的世界のウイグル女性」(2005)

「中国の少数民族教育におけるウイグル民族のアイデンティティ」(2003)